

看護部の取り組み

救急外来の取り組み

救急外来 小笠原裕子

救急外来では、発熱外来としてPCR検査・抗原検査を実施している。発熱外来受診患者は院内で受付をせず、インターホンで事務が対応し、受付を

する。来院した患者の検体採取は採痰ブースという個室内で実施し、実施後は紫外線照射による消毒を実施している。

患者が多数の時は、接触せずに待機できるように、テントを設置した。



PCR検査を受ける患者は救急外来の中には入らずに検査を実施できるように物品を配置した。



発熱外来の患者が会計や処方待ちをする間、他患と重なりそうなどときには待機場所としてブラッシングルームを使用し、患者同士が接触しないように配慮している。



COVID19が判明している患者は、陰圧個室での対応としている。また、発熱患者でCOVID19が疑われる患者も個室対応としているが、陰圧個室が使用中の場合は他の個室で診察をしている。

COVID19や疑いのある患者のPCR以外の検査検体は、ジップ付きの袋に入れて密封し、気送管で搬送している。





COVID19感染症PCRの検体は、専用のボックスに入れて看護師が直接搬送している。

陰圧ではない個室にはクリーンパーテーションが設置されており、常に作動している。また、陰圧でない個室で診察していた患者のCOVID19陽性が判明した場合は、患者退室後に大風量で作動させ、空気清浄を実施している。30分で99.9%のウィルス除去を確認している。

